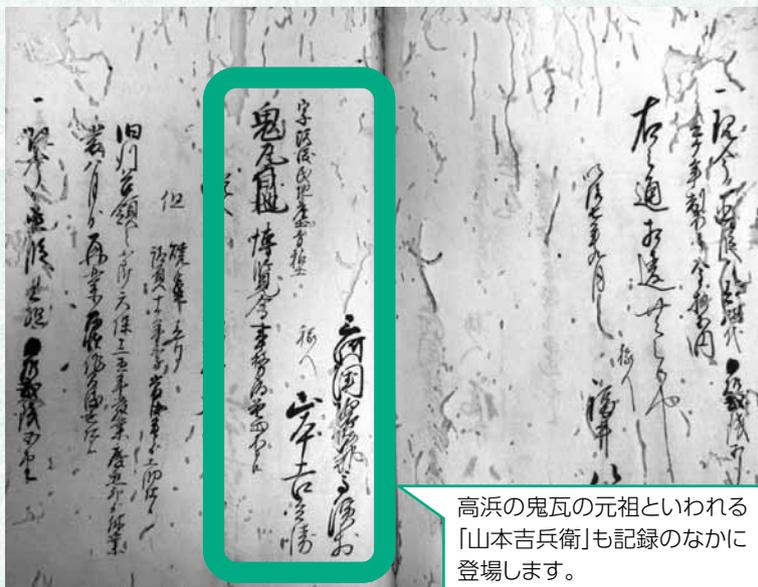


## ❖ 市誌編さんだより Vol.16 ❖

専門家の調査だけでなく、市民の調査協力員や大学生・中高生と聞き書き調査・執筆を行っています。奇数月に編さん状況を掲載しています。



高浜の鬼瓦の元祖といわれる「山本吉兵衛」も記録のなかに登場します。

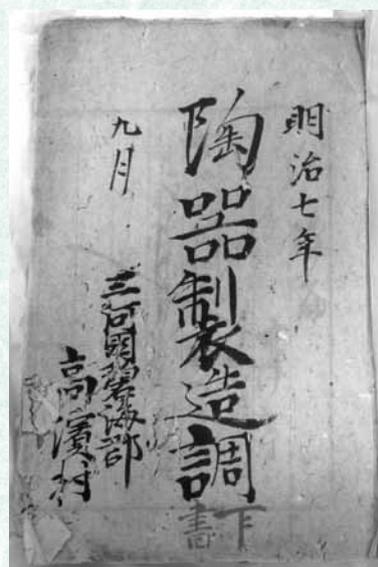
高浜市立郷土資料館に、『陶器製造調(下書)』という資料が保管されています。これは明治7年(1874)に、高浜村にあった瓦屋や土器屋について調査したものです。ここには、その店がいつから創業していたのか、何を生産していたかというだけでなく、どこから産出される粘土を使用していたか、窯が何基あったのか、どこに出荷していたか、値段はどのくらいかということまで詳細に記録されています。

この資料によると、明治7年の段階で瓦屋は16軒あり、そのうち2軒は鬼瓦を専門につくっていました。鬼瓦を除く、瓦の主な出荷先は東京で、土鍋や焙烙(ほうろく)などといった土器については尾張や伊勢方面に出荷されることが多かったようです。また、出荷する際には船に乗せて運ばれました。

瓦に関する古文書は非常に数が少なく、高浜で瓦がつくられ始めたとされる江戸時代の資料はごく少数しかありません。今回紹介したものは明治時代のもですが、かつての状況がわかる非常に貴重な資料です。三州瓦は江戸(東京)を消費地として発展したということがよくいわれますが、それを裏付けるものともいえます。こういった資料が今後も新たに見つければ、高浜の瓦づくりの歴史がより鮮明になってくることでしょう。

調査のなかで新たに見つかった高浜にまつわる「ヒト・モノ・コト」などの情報を速報として紹介します。今回紹介するものは、これまで発掘された資料のほんの一部です。事業を開始した平成28年度から現在まで、市民の皆さんからも情報をいただき、貴重な発見がたくさんありました。5年計画ですすめている市誌編さんもいよいよ大詰め。これからもご協力をよろしくお願いいたします。

### 市誌編さんの現場から ⑦



- ◇自宅や地域に、高浜に関する書物、写真、チラシなど(とくに明治時代～昭和)がありましたら、ぜひ情報を寄せてください。
- ◇「市誌編さんに興味があるので参加したい!」という方は連絡してください。資料整理、調査、聞き取りなどを通して、新しい市誌をいっしょにつくりませんか?
- ◇市誌編さんに関する内容は、市公式ホームページ「文化スポーツグループ」のページでも紹介しています!